

テーマ：北方領土（実践校）

根室管内 羅臼町立春松小学校

■本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間において、北方領土の自然や歴史等について調べるとともに、「北方少年少女塾」や「北方領土に関するワークショップ事業」などを通して、北方領土の特色や自分たちの生活との関わりについて探求的に学習しました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①単元の目標

地域と関係の深い北方領土の特色や自分たちの生活との関わりについて調べる活動を通して、北方領土の自然や歴史等について理解するとともに、北方領土問題を身近な問題として捉え、日本固有の領土である北方領土に対する願いを具体的に考え、北方領土問題に関心をもって発言したり行動したりできるようにする。

②取組の様子

(1) 課題の設定

「北方少年少女塾」の活動を通して調べたことから、一人一人が北方領土の特色や歴史、自分たちの生活との関わりなどについて探究的な課題を設定しました。



【語り部の講話の様子】

(2) 情報の収集

「北方領土に関するワークショップ事業」を活用した語り部の講話や映画「ジョバンニの島」の視聴を通して、北方領土の地理や自然、北方領土問題について情報を収集しました。



【ワークショップの様子】

(3) 整理・分析

1人1台端末を活用し、収集した情報を整理するとともに、適宜他者参照したり、グループによる情報の分析をしたりすることで、北方領土の特色や自分たちの生活との関わりについて理解を深めました。

(4) まとめ・表現

一人一人が明確な相手意識をもって作成した展示物を用いて発表し合うことを通して、北方領土の特色や歴史について理解を深めるとともに、北方領土問題を身近な問題として捉え、日本固有の領土である北方領土に対する願いを考えることができました。

③「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・一人一人が課題解決に向けて学習を進めることができるよう、情報の整理・分析の場面で、自分の伝えたい内容の中心や相手意識を明確にする場面を位置付けました。
- ・北方領土の特色や自分たちの生活との関わりについて理解を深めたり、課題解決に向けた新たな視点を得たりできるよう、1人1台端末を活用し、他者参照や、グループによる情報の分析をしました。

■実践の振り返り

- ・「北方少年少女塾」や「北方領土に関するワークショップ事業」を活用し、探求的に学習を進めたことにより、「北海道や自分達の住んでいる地域が好き」と肯定的に回答した児童の割合が96%から100%に増加するなど、児童のふるさとや北海道に対する愛着や誇りを育むことができました。
- ・保護者や地域の方による講話など、地域人材の活用による単元の指導計画の充実を図ることにより、地域の歴史や自然についての関心を一層高めることが期待できます。